

## 凶首塚古墳

凶首塚古墳は、6 世紀後半から 7 世紀初頭に造られた古代の古墳です。その時代には、このような建造物が貴族や豪族の長、その他の有力者の墓として使われていました。凶首塚古墳は、宇佐地域の豪族の長の墓であったという説がありますが、実際に誰が埋葬されていたのかは不明です。

研究によると、凶首塚古墳は当初、直径約 15 メートルの丸い古墳であり、埋葬された豪族の長の領土であったと思われる盆地を臨む台地の上に造られました。残念ながら、古墳の土は随分前から侵食されており、石室しか残っていません。長方形の石室は、高さ約 2 メートル、幅 1.8 メートル、厚さ 0.4 メートルの 4 つの大きな石でできています。

「凶首塚古墳」という名前は、「反乱者の頭の高塚」というような意味です。伝説によると、720 年代に大和朝廷の軍隊が隼人の反乱を鎮圧した後、100 人分の頭部が勝利の証として持ち帰られ、その後、宇佐地域に埋葬されました。しかし、この古墳はこの反乱の前からすでに存在していました。現在の名前の由来は恐らく、隼人の魂が祀られている近くの百体神社とこの古墳が関連付けられたためです。

凶首塚古墳は宇佐神宮へと続く勅使街道という道沿いにあり、自由に見ることができます。古墳は大分県の史跡に指定されています。